

共創情報科学部 (仮称)



情報科学を基盤に人と自然が調和する
「共創社会」を創る

学びの特徴

情報科学を基盤とした3つのコースを横断的に学び、多様な視点を育む



▶ 情報科学を基盤とした教育

数学や情報学といった情報科学の基礎と教養を体系的に学び、数理・データサイエンス・AIへの理解を深めます。これにより、情報技術に関する幅広い知識と、急速に進化する技術に対応できる創造的な思考力を身につけます。

▶ 3つのコースをつなぐ共創システムの学び

知能・デザイン・環境の3つのコースを学ぶ上での土台となる共創システム科目群を設けます。コンピュータ・人間・自然を包括的に学ぶことで、新たな知を創造し、新たな社会の仕組みをデザインするために必要となる知識と能力を身につけます。また、演習科目を充実させることにより、情報技術の仕組みの理解と、情報機器をハードウェア、ソフトウェアの両面から活用できるスキルを修得します。

▶ 情報技術を活用した地域課題解決

3つのコースの横断的な学びを通して多様な視点を身につけることで、異なる分野の知識や技術を組み合わせた新たな解決策を生み出す実践的な学びを展開します。講義での学びを実際の地域課題に適用し、企業、行政、市民などと協働して情報技術を駆使しながら課題の発見と解決に取り組めます。

3つのコース

知能コース

AIを中心とするICTの
仕組みと応用方法を学ぶ

〈学びのキーワード〉

AI / データサイエンス / アルゴリズム / プログラミング / ソフトウェア / 数値計算 / センシング技術 / メディア処理 / 情報ネットワーク / 情報セキュリティ など

〈学びの例〉

AIの基本アルゴリズムとその応用を学び、実際のプログラミングを通して、AIを自分で構築するための基礎知識を得る。

デザインコース

人間中心発想でモノやコトを
創り出し提案する方法を学ぶ

〈学びのキーワード〉

HCD(人間中心設計) / UI/UX / サービスデザイン / 情報デザイン / プロダクトデザイン / 機能デザイン / 人間工学 / デザイン思考 / 3Dモデリング / マーケティングリサーチ など

〈学びの例〉

ユーザーにとって魅力的で使いやすいスマートフォン用アプリケーションをデザインし、体験価値を高める提案力を身につける。

環境コース

自然環境の保全と経済成長を
情報技術により両立させる方法を学ぶ

〈学びのキーワード〉

生物多様性 / 環境影響評価 / 生態工学 / 防災・減災 / 将来予測 / 環境センシング / 気候変動 / 森林環境 / 地理情報システム / 農業環境工学 など

〈学びの例〉

生物多様性などの環境評価に必要な各種調査、センシング手法によってデータを収集し、統計モデルによって将来を予測する技術を学ぶ。

卒業後の進路

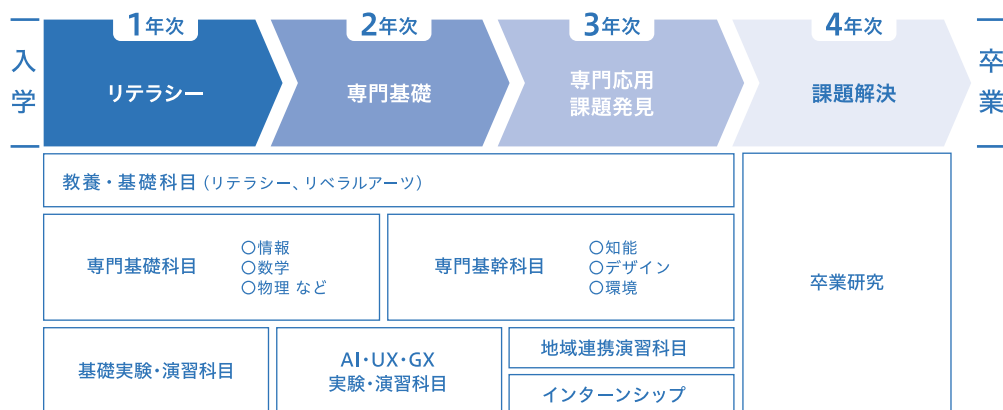
情報技術の専門家は幅広い地域や企業から求められています。情報・通信業界はもちろん、情報技術を活用する様々な業界(製造、建設、小売・物流、医療、農業、金融、観光など)での活躍が期待されます。

【例】システムエンジニア / ネットワークエンジニア / UI/UXデザイナー / デザインエンジニア / 環境コンサルタント / 環境アセスメント職 / 研究開発職 / 公務員 など

地域協働型教育 (地域×大学)

地域の企業や自治体などとともにさまざまな情報技術を
活用しながら、課題発見と解決に取り組む

カリキュラム体系



※UX(ユーザーエクスペリエンス)=ユーザーが商品やサービスを通して得られる体験
※GX(グリーントランスフォーメーション)=地球温暖化に対応した社会変革と経済活動

